

練馬図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和5年10月27日（金） 14時～15時
- 2 場所 練馬図書館 会議室
- 3 出席者 利用者 4名
図書館 5名（練馬図書館長、副館長、職員、主任図書館専門員2名）
生涯学習センター 1名（副所長）
- 4 テーマ 「つながる図書館」
- 5 配布資料 (1) 練馬区教育要覧（令和5年版抜粋）
(2) これからの図書館構想（一部抜粋）
(3) 練馬図書館と外部とのつながり
- 6 次第 (1) 練馬図書館長挨拶
(2) 職員紹介
(3) 参加者自己紹介
(4) 懇談・意見交換

練馬図書館利用者懇談会 会議録

1 練馬図書館長挨拶

今日は、司会進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
お手元の資料を確認させていただきたいと思います。

皆様にお配りさせていただいた資料は、全文ではないのですが、教育要覧が一つと、資料番号がついてはおりませんが、基本的には図書館の取り組みについて抜粋したところが一つ。それと、これからの図書館構想を昨年11月に策定しているものですが、そこから一部抜粋したものが一つ。最後に、練馬図書館と外部とのつながりとしてA4の紙を1枚、付けさせていただいております。

皆さんにはアンケートの用紙もお配りさせていただいておりますので、終了後、アンケートに記入していただきまして、お帰りいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料については大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

それでは、令和5年度の利用者懇談会におきまして、最初に、まずは挨拶が終わったところで、職員紹介というところから始めさせていただきます。

2 職員紹介

練馬図書館副館長、職員、主任図書館専門員2名、生涯学習センター副所長

3 参加者自己紹介

4 懇談

図書館 それでは、ここからは懇談ということで進めさせていただきたいと思います。
今年度に関しましては、今日、また金曜日に設定させていただいているところ
ですけれども、昨年、日程の決め方というようところで御意見をいただき、
曜日が土曜日ではないこととかを伺ったかと思います。

今年度の利用者懇談会につきましては、全12館がそれぞれ別の時間帯になるよ
うにという調整がされていまして。

利用者 ありがとうございます。助かっています。

図書館 同じ時間帯にならないようにという設定になっています。

今日から始まったところですが、全ての図書館に、もし行こうと思えば
ですけれども、すぐにでも行けるという設定にさせていただいておりますので、
よろしくお願いします。

今回の練馬図書館として考えたテーマにつきましては、こちらにありますよう
に、「つながる図書館」という、そういう名称にさせていただきました。

この「つながる図書館」というテーマですが、今日皆さんにお配りした
昨年11月に策定された新しい図書館構想ですが、今年度10年間、こんな
ことをやっていこうという図書館としての決意のようなものがいろいろと書か
れております。

まず、一番最初のところから、「世界につながる 彩り豊かな 知の情報拠
点」というような、そういうイメージになっていますので、私たち練馬の図書
館は世界とつながっていくのだという、気持ちはそういうことでやろうという
ことをみんなで目指しております。

めくっていただきますと、目指す将来像というところに、世界とつながるとい
う意味でも、世界の情報、知識を届ける。

これまで図書館は、知の集積場所として、アーカイブ的などころがかなり強
く意識されていたかと思います。利用者の方に、知りたいこと、いろんな情報
をお伝えする、それを届けるということがメインとしていろいろとやってきた
かと思います。これからは、それだけではなくて、もっといろいろと、この場
所、この図書館という場を使って、いろんな人がつながったり、いろんな情報
につながるように、そんなこともいろいろ考えていかなければいけないので
ないかということが、求められる将来像の中に入ってきているかと思います。

3番目のところにも、「交流が生まれ」というような、そういう言葉が入って
いるかと思いますが、ただここに来るというだけではなくて、この図書
館に来ることによって新たな交流が始まるような、そんなこともイメージして
いるのではないかと考えております。

そのようなことで、今回の「つながる図書館」というようなテーマにさせてい
ただいたところでは。

では、この練馬図書館が、実際にこれまで、どんな方々とつながったり、どん
なところとつながっているいろんなことをやってきたかというところに関してが、
お渡しした「練馬図書館と外部とのつながり」という資料になります。こちら

を御覧ください。

今日も文庫の皆様とか、あるいは町会の方とか、利用者団体とかに来ていただいておりますけれども、それ以外にも、私ども練馬図書館はいろんなところとつながりながら図書館の運営を進めてきております。

一番上のところが区役所のいろんな部署とのつながりということで書かせていただいております。

練馬区内の12の図書館の内の、この練馬図書館の特色としましては、何といても区役所の直下にある、すぐ近くにあるということで、区の行政に関することに関しては、ここが一番いろいろと連携を取ったこともやりやすいという、そういう施設になっております。

区のいろんな部署も、いろんな事業をやっているわけですがけれども、区民の方々にこういうことをやっていますよとか、お知らせをするということに関して、広報に関しては、いろいろとやっているのですがけれども、どこも苦労しているというところが、ずっとございます。

図書館という施設は、区のこういう公共施設の中では最も自由に出入りできる施設ということになっていますので、用がなくても入れる施設という、そういうすごい特徴がありますので、そういったところに区のいろいろな情報を出していくということは、本当に、区のいろんなところから要望が来るのですが、そういう機能もできているかと思えます。

というわけで、いろんな部署と協力してやっているところですがけれども、そういういろんな事業の周知に関するようなもの、ポスターとか、そういったものは、本当に、日常的にいろんなところから来たものを配ったりしているところでは。

それ以外に、イベントでもやっているのが、毎年、環境月間というのを6月にやったりしますがけれども、そういうところで環境に関する展示をやったりとか、あるいは、夏場に打ち水のイベントを外でやったりというようなことを例年やっております。

あとは、医療関係も結構協力依頼がありまして、今、図書館の利用者の方という結構高齢の方も多いので、医療関係に興味を持っているというか、そういう方も多く来られます。区内の順天堂とかと連携して講演会をやったりということもありますので、そういった講演会を、最近ではZOOMで同時上映という形でやらせてもらったりとか、あるいは、講演会を記録したものを後日上映するとか、そういったこともこの場でやらせていただいたりしているところでは。

各課から依頼を受けることが、そうやっていろいろあるわけですがけれども、逆に、こちらからお願いするというところも中にはあります。

ここに書かせていただいているのは、「絵本と歯ブラシ」という事業ですがけれども、保健相談所に歯科衛生士がおりますので、一番近いところは豊玉なので、豊玉の保健相談所から歯科衛生士に来てもらって、「絵本と歯ブラシ」の講師としてやってもらうこともございます。

また、この先のイベントでいえば、近々、外国語、英語とか中国語での読み聞かせなども予定しているのですけれども、そういったことに関しては、外国から来た方の支援を担当している地域振興課の協力をもったりとかもあります。

そういった形で、各部署と練馬図書館と連携した事業を進めさせていただいているところです。

その次にありますのが、区内の各団体、様々な団体とのつながりということで、書かせていただいています。

つながりということかというと、一番頻繁に行き来しているのが小学校だと思うのですけれども、小学校には団体貸出をやったり、今日は探検ラリーでしたか。

近隣の学校で、受け持ちの担当校が幾つかありますので、そういった学校に探検ラリーに行ったり、ブックトークに行ったりというようなこともやっていますし、あるいは逆に、図書館に見学に来てもらうということもやっています。

小学生は結構日常的にも図書館に来ることが多いのでいいのですけれども、中学生ぐらいになってくるとなかなか来られないというようなこともあり、中学とのつながりは、小学校ほどはあまり強くないかなと思っています。

中学校だと、区では職場体験ということで、図書館の仕事を体験してみようというようなことを、短い日程ですけれども、2日間やったりとか、そんなこともやらせていただいています。

もっと下の保育園だと、近隣の保育園がよく散歩がてらに寄ってくれるのですかね。結構、散歩コースの中に組み入れていたりするみたいで、図書館に入る前に整列して、声を出さないように、みんなで「しー」という感じで、中に入ってきて絵本を選んだりというようなことを結構頻繁にやっています。

そういう下の方の小さいお子さんから、ぎりぎり中学生ぐらいまでは結構来ているのですけれども、一番弱いのが、その先の高校生と、あと、大学生もなんですけれども、高校生世代は、この近隣に高校がないということもあるので、高校生世代はここに来ることがないし、高校生をターゲットにした事業も、そういう意味で組みづらいということがあります。

また、大学生、学生に関しても、近所にはないので学生と連携しているという事業も少ないのが現状です。

その次の高齢者施設ということだと、今一番近くには、はつらつセンター豊玉というのが、この少し南にあるのですけれども、そこは結構つながりができていまして、2か月に1回ぐらいのペースでブックトークに行かせていただいたりしています。

一度、前に、はつらつセンターで声かけさせていただいて、図書館見学に、バックヤードツアーを特別に組んだときもありました。だから、行くだけではなくて向こうから来てもらうというようなことも最近では始まっています。

次に、商店会というところなのですけれども、商店会はつながりがそんなに多くはないのですけれども、おとり様商店会の皆さんが子ども向けのイベント

をやっているしやって、そこに、私たちが読み聞かせをしに行かせていただいたりするようなことがあります。ちょっと前、先月も20人ぐらいの子どもに聞いてもらったかな。そんなこともやっています。

そのほかに障害者団体ということだと、子どもでは、視覚障害者の団体の方に依頼をして、一般向けとか、子ども向けにも点字の講座を開いたりということをやっています。

点字で自分の名刺を作ってみようというようなことをやらせていただいて、実際に参加した子どもたちも自分で打ってみて、それを先生に実際読めるかどうかを確かめてもらったりとか、そんなこともやらせていただいているところなんです。

読書サークルには、もう本当に来ていただいて。図書館に関連するいろいろな団体がありますので、そういった皆さんには、こちらも、協力していただいて本当にありがとうございますというところなんです。

今のところ、このような形で、いろいろなところとつながっているのですが、今後は、世界につながるということを考えつつ、やらなければいけないと思っておりますので、皆様から、こういうところとつながった方がいいのではないかとか、あるいは、こういうところとつながってみたいというようなお考えとか、そんなことも含めて今日は御意見いただければと考えているところです。

ざっと事業を説明させていただきましたけれども、何か御質問とかございますか。

利用者 この事業の外部とのつながりのイベントを見ていますと、子ども中心のものが多く感じがするのですが。子どもとか、障害者、ハンディを持っている方、高齢者とかで。最後の読書サークルというのは一般の人向けなのですか。

図書館 一般が対象です。

利用者 そうなんですね。そうするとほとんどあれなのですね。一般の人ってあまり、現役世代は図書館で何かをするとか、そういうモチベーションとかはないのかしら。それとも。

図書館 いろいろなイベントを組むときに、広く誰でも来ていいですよというような形で組むことが多いのですが、誰でも参加できる事業でいうと、結果的には親子連れとか、あるいは高齢の方とか、そういう方々が参加されるというケースが多くなり、間の世代の方の参加は少なかったということが多かったかなと思います。

その間の世代をターゲットに、そこだけを絞ってという事業はなかなか今までできていないかなと思います。

利用者 よく、欧米の図書館では真っ先に読書会が浮かびますよね。

日本の、特に練馬の場合は、ほとんど子どもサービスで、図書館の子ども向けもある。ハイティーンまでのユーザーとしても、15%かと20%を切りますよね、人口比が。だけど、図書館のサービスに対しての時間にしろ、スペースにしろ、3分の1くらいは子ども対象かなという感じがして、どうなのでしょうかね。

読書離れは、活字離れの影響なのか、全体の方針なのか。

利用者 うちの文庫連の田中が講演会をやらせていただいたのではないかと。しましたよね。それは大人向けだったと思うのですけれども、それこそ、世界につながる翻訳の話だったのですけれども、何かそういう協力もさせていただきたいのですけれども。

図書館 ありがとうございます。

読書会というところでいいますと、ちょうど一昨日、「時代小説おすすめ合戦」という、そういう読書会といっていいのですかね。ビブリオバトルですかと言われたような、そういうものなのですけれども、やったところですよ。

日中ということもあるので、御参加いただいた方は高齢の方とかでしたかね。申込みが伸びなくて、結構やるのは難しいかと思ったのですけれども、当日はそれでも8人、9人ぐらい来たのでしたかね。

御自身でそういうお話をする場がないというような方もいらっしゃるって、本当にたくさん読まれている方は、読んだことで得られたことを、どうしてもお話をしたいという方もいらっしゃるようで、だから、今回参加された方にも、次はいつですか、もう絶対に次も発表したいということですので、そういう方もいらっしゃるようです。

本当に現役世代を捕まえるということが難しいですね。

イベントごとにも、今回の時代小説は平日の日中でしたけれども、結構事業は土日にも組んだりもしているのですけれども、土日でも結局、親子連れとかが多いかなと思います。

利用者 生涯学習センターとのつながりというか、そこは何かありますか。イベントとか。

図書館 生涯学習センターにはいろんな部屋があるので、そういった会場をお借りして私たちはイベントをやらせていただいています。

それこそ文庫さんがホールを使っておやりになったみたいに、各部屋がたくさんあるので、そういうところをお借りしてやったりということはよくあります。

あるいは、生涯学習センターもいろんなイベントごとをおやりになっているので、そういった事業の周知ポスター等を貼りだしたりとか、そういったこともさせていただいています。

当然、生涯学習センターさんが大家さんなので、日常的にはいろんなことで面倒を見ていただいているというのが実情です。

利用者 事業を一緒にやるとか、そういうものも？

図書館 共催でやっているということは、しばらくはないと思うので。たしか、生涯学習センターのイベントは、結構、外部に委託されてることとかが多いですよ。外部に事業そのものも委託されているケースが多くて、練馬図書館は直営館なので、イベントも何でも区の直営でやっていますので、そういう意味では少し違いはあるところですね。

利用者 子どもの読書週間で、5月でしたか、絵本作家をお呼びになって、センターのホールを使ったときに、こちらの図書館ではその作家さんの本をまとめたとい

うか、そういうようなやり方があったと思うのですけれども、ああいうイベントはないのですか。

図書館 子ども読書の日の事業と記憶しているので、光が丘が主催でやったと思うのです、多分。ついでに本もお出ししたけれども、光が丘でやったものを、こちらでお出ししたような記憶があります。こちらからも来ていたという記憶はありますね。

センター センターのホールとか、2階の教室というのは使えるので、もしそういった企画があれば、センターのホールですとか、教室を使うというのは全然できるので、今後そういうのは考えられるかな。

教室とかホールは、言っていただければ使っていただくことはできるので、図書館さんの方に。何かの企画というのはできると思うのですけれども。

図書館 子ども読書の日の、区全体の事業と、各館でする事業と別々にあるので、全体の事業のときにホールを使ってした記憶があります。

図書館 川端さんの講演会は、多分、上でやったのだと思う。

利用者 川端さんは上でしました。

図書館 センターのホールは、観客の数、座席の数も300あるので、それなりに結構観客が入らないといけないという、そういうイベントごとに向いている施設になっています。だから、やるとすると結構な規模で準備しないといけないような。

センター そうですね。ホールは300で、上の部屋は多いと50人以上入る部屋が何個かあったりするので、動員できるのであれば、そういう企画も今後考えられるかなと。

利用者 結構取るのが大変ですよ。部屋を確保するのが。抽選とか。

センター おっしゃるとおり、通常だと抽選とかをしていただくのですけれども、公用利用、公の用ということで、役所の方であれば公用利用という形で、抽選は半年前からなので、1年ぐらい前から予約もできるので、もし、そういう企画とかができれば、公用利用で予約は取れますので、そういうのも考えられますね。

利用者 せっかく併設してあるのでね。

図書館 そうですね。

利用者 あまり、べったりは困るけれど。

利用者 いい協力関係ができれば。

利用者 一番近いですしね。

図書館 そうです。今も協力しながらやっているのもありますけれども、ただ、公用利用で先にいろいろ押さえてしまうと、結果的には一般の方で使えないということになってしまうので、だから、そこら辺はバランスを、結構、センターも気にされているというように伺って承っていますので。何でもかんでも公用でお願いしますとはいえずらいところも。

利用者 そうですね。一般利用者としては、ここが公用利用なの？と思う。ここではないのですけど、図書館とかも、先に、「えっ？」というのを見たりすることがあるので、バランスは必要ですね。

利用者 話は全然違うのですけれども、貫井図書館が今、改修時期だけれども、再整備の方に話がいつてしまっているじゃないですか。

ここも恐らく、年代的に言えば改修だと思えるのですけれども、練馬区の図書館は今まで改修すると、その後、指定管理になったりしてしまうのですよね。だから、あまり声高に言いたくないところもあって難しいのですけれども、拝見すると、いろんなどころがいっぱいあるなど。深刻な、急ぐようなところはありますか。見てくれが汚いとか、そういうことではなくて。

図書館 昨年の利用者懇談会ときには、ちょうど工事中だったかと思うのですけれども、昨年も雨漏り関係、特に屋上の防水の関係とかにかなり時間をかけてじっくりやらせていただいているところです。

ですので、この建物としては、もともと大規模改修がもう少し前に予定されていたところですが、それが先延ばしになって、まだ今後の予定は立っていないので、少なくとも何年かは支障なく使えるように、そういう雨漏りを中心に、あと、外壁の工事、タイルが落ちないようにという工事をさせていたいただいたところです。

それ以外にも、いろいろと不都合が出てくれば、それは対症療法というか、少しずつ直し直し使わせていただいているところです。

いつ大きな工事ができるかということは、まだ何も目途が立っていないので、その辺は大家さんがいろいろと苦労されて、いろんなどころを修繕していただいたりしているところですが、

センター 補足させていただきますと、見ていただいているとおり、かなり建物が、公民館をもともとやっていたところなので、もう何十年という建物で、先ほど館長がおっしゃったとおり、大規模改修というのを、当初、何十億とかけて新しくしようとしていたのですけれども、それは今、貫井図書館との関係とかもあって延期になってしまっていて、今、区で、公共施設等総合管理計画という、令和6年度から10年度にどういう工事をやっていくというのを作っているところなのですけれども、その予定では、この建物で今一番まずいのが、空調設備と受変電で、できてから1回も更新していなかったりして、正直なところ耐用年数をかなり超過していて、実は今年の夏も、1回空調が止まってしまったということがありまして。図書館さんは大丈夫だったかと思うのですけれども、実は生涯学習センターはかなり苦情が殺到しまして、暑い暑いという、異常気象もあったのですけれども、それは何とか、無事に修理できて直ったのですけれども、だから、今一番危ないのが空調と受変電で、それが止まってしまうと、それこそ休館という話にもなりかねないので、それは、先ほどの公共施設等総合管理計画にも打ち出して、お金をかけて直そうというふうに、こちらとしては考えているところになります。

そうすると、併設なので図書館さんにも御迷惑がかかってしまうのですけれども、そういうふうに計画をしているところになります。

図書館 生涯学習センターは、2階の各部屋の上はすぐ天井で、屋上なものですから、今年の暑さで本当に2階の各部屋はすごく暑かった。図書館は、その下の1

階部分なので、間に2階がありますから、そこまでひどくはなかったのですけれども。でも、西日がすごく差してくるので、ここの部屋は本当に全然冷房が効かなくて、結構いろいろ言われたりしたところです。

利用者 暑い夏でしたものね。

図書館 今年とは異常だったかなと思うのですけれども、特に綱渡り状態だったかなと。

利用者 今年だけではないですよ、これは。

図書館 夏が一番の課題だということで、お金をかけて。先ほどお話にあった、受変電設備ということで、止まってしまうと停電になってしまうので、そうすると全館が全く機能しないという状況になります。それは本当に避けなければということで、いろいろと考えていただいているところです。

利用者 館長、一ついいですか。

今のお話とは全然違ってしまうのですけれども、「世界につながる」このテーマですけれども、練馬図書館は外国の方の利用はどのぐらいありますか。

図書館 練馬図書館には外国語の資料はあまりないので。

利用者 ですよ。

利用者 だから、そういう意味でいえば、新聞とか雑誌が少しある、あと、絵本があるというところで。でも、定期的に見に来る人は何人かはいるのですよね。ほとんど毎日来るような人も中にはいるのですけれども、それ以外には。

また最近、結構、外国籍の住民の数も増えてきているせいもあると思うのですけれども、まだあまり日本語ができない方が日本語の資料を探しに来たりということも、ここのところまた増えてきたかなと思います。

利用者 この間、私は、外の掲示板に、お話し会で、外国の言葉でお話しをするということ、ここで知ったんですよ。

図書館 そうです。

利用者 あのとときは、私は来ていないのですけれども。まだなのですね？

図書館 これから。11月5日ですね。

利用者 誰が読むのですか。

図書館 さっき、つながりという中で少しだけお話しさせてもらった、地域振興課というところを、私が前にいたのですけれども、そこは外国の方の支援をしているところで、支援をする担当のスタッフがいて、多言語情報支援員と呼んでいるのですけれども、その人がお話しにきます。

今回3人の人に来てもらうことになっていて、英語を担当する2人は日本人ですけれども、中国語を話す人は中国出身の方が来られて、中国語で読み聞かせとか手遊びとかをやってくださるということで今話を進めています。

利用者 絵本は日本の絵本？

図書館 一つは、日本語、英語、中国語、同じものを順番に読んでいこうということで、それ以外、英語だけとか中国語だけという本も混ぜてやってみようということで、プログラムを組んでいます。

利用者 とっても言いにくい話ですが、ちょっとだけ。

御存じのように、私は、豊玉東小の図書館開放のスタッフで、月に1回、

朝の読み聞かせにも若いお母さんたちと一緒にやっていきますけれども、うちの娘が小学生だったときに比べて、今は外国の名字の子が増えているなと思っています。

何人かいらしていたのですけれども、それよりも明らかに、この子はどこの国なのかなと。例えば、韓国の名字だとか、中国の名字だけではなくて、ヨーロッパ系の名字の子もいたりするのです。朝の読み聞かせに行くと、この子はきっとお父さんとかお母さんがどちらかの国なのだろうなというお子さんもいます。

この間、感じたのが、その子がクラスに入れられない様子を見ていて、そういうお世話は先生とか、それに準ずるスタッフの先生方がされるのだと思うのですけれども、その子だけのために絵本を用意するというのは大変だなと思ったのですけれども、多分6時間の授業があったら、給食が終わったころにはきっとクラスの中でうまくいっているのだろうな、けれど、朝の最初的时候は嫌だなと思いながらドアの前でうろうろしているのを見て、さーっとクラスの中に入っていけるようなきっかけがあるといいなと思いながらいたのです。ドアの前で寝っ転がってしまって、嫌々みたいなことをしているのを見て、どのくらい日本語ができるのかとか、そういうことは全然そのときには分かりませんでしたけれども、学校に行くと心細いと思うのだろうなと思うのですよね。だから、そこを支援ではなくて、いい力添えができるといいなと。ついこの間だったのですけれども、本当にそう思いました。

そうしたら、外国の言葉で絵本と書いてあったので、いいことだと思うのですが、ここに来なくてはそれが聞けない。そんなことを考えましたということでも。

図書館

おっしゃるとおり、外国籍の家族が結構いろいろと増えてきていますので、日本語のできない小学生世代の子も大分いらっしゃるというふうに承っています。まさに、私が前の職場、地域振興課にいるときには、そういうお子さんのための事業も、いろいろとやっていたところですが、学校では日本語を教えるための取り出し授業とか、国語の時間に別のところで、ほとんど1対1で日本語を指導してくれる人がいたり、いろんなこともあるのですけれども、それ以外に、地域振興課で受けたのは、こども日本語教室という事業を毎週土曜日にやっています、でも、区内ではここでしかやっていないので、大泉とか関町とか、遠くから来るのはなかなか大変なのですけれども、でも、1か所でもそういうところで日本語を勉強するというところがあれば、そういうところに固まってくるのが日本語の学習が必要いろんな子どもたちなので、その子たちが自分だけではない、他の同じような境遇の子とつながったり、そこもつながるといいことだと思うのですけれども、そのためにも、そういう場が必要だということで、だんだん充実させていったりしていたところです。子どもには、そういう同じような子どももそうだし、あるいは信頼できる日本人の日本のことも分かっている大人という人たちとのつながりというのも非常に重要なことではないかと私は考えていました。

なので、前のこども日本語教室では、子どもたちが生きる力を何とか伸ばしてくるためにと思っているいろんなことやっていたのですけれども、すぐそこでやっているものですから、この図書館に来て連携できないかなと思っていて、まだ、具体的にできていないのですけれども、毎週土曜日にそこでやっているの、いずれ図書館にも見学に来てもらったりとか、できないかなというのは思っているところで、情報交換はしているところです。

来てもらえれば、その子が図書館を使うということももちろんそうですけれども、きっとその子の家族になる人たちは、もしかしたら全然日本語が分からないから、日本の図書館なんて入っていいとも思っていないかもしれないと思っているので、全然日本語ができなくても、日本語ではない本もあるし、あるいは日本語の勉強のための本もたくさんあるから、そういうのを知ってもらうという、そういうことを、その子どもを通してでもできないかなというのも考えています。

利用者

もう一つ。今、館長がおっしゃった日本語教室ですけれども、私が知っている中国の女の子が、今はもう6年生なのですが、1年生のときに入学してきたときには、親子ともにほぼ全く日本語ができなかった。だけど、お嬢ちゃんの方が早かったのですね、習得、日本語の。そしたら、お嬢ちゃんの習得を習って、お母さんが日本語の単語というか、語彙力が増えたというのをそばで見っていたので、子どもが先に伸びていくというのがすごくよく分かりました。

図書館

1年生だと、本当に早いと思います。もうちょっと上になってくると難しいのですよね。小学生はまだいいのですけれども、中学生ぐらいになってきてから日本に入ってきて、しかも、日本語ゼロだと、学校になじむまで大変ですよね。だから、そこで、よくできる子はガンと伸びてあつという間に日本語ができるようになったりするので、もういいやとなってしまうと、全然日本の社会に入っていないで、帰りたいということになってしまう子もいたりするし、そういう子はいじめられてしまったりということもあったりするということも聞いています。

図書館

先日、中学生の関係者というか、御家族かどうか分からないのですけれども、その方がカウンターにいらして、まだ漢字がよく読めないけれども、大きいのでプライドがあるので、児童書の易しい本は読みたくない。振り仮名がたくさんちゃんと振ってある読み物はないですかといらっしゃって、YAの青少年のところのお勧めの物語とかを中学生が読むようなものを出したのですけれども、振り仮名が全部振っているわけではないのですけれども、そういうことがありました。

図書館

結構、教材選びは難しいですね。そういうプライドがあるので。だから、本当に読めないのだったら、ルビ付きの子どもものもの方がいいかと思ったらそうではないのですよね。そういう子が難しいところなのですけれども、でも、幸い図書館には本当にいろんな種類の本があって、例えば大活字本なんかは大人向けですけれども、結構ルビが振ったりしてあるので、中身的には全然

大人向けだけれども、だけど、漢字が分からなくても読めるようなものとかいろいろあるので、だから、そういういろいろあるということ、ぜひ、いろんな人に余計知ってもらいたいという気持ちが、今、強く思っているところです。

利用者 母語が日本語でない方へのサービスも本当大事なかなと。これから図書館でも、それを意識してやっていくべきかなと。

2019年に読書バリアフリー法というのができて、私も今、まだ勉強しているところなのですが、サポートを必要とする子どもたちは、他にも必要で、実は、午前中、私は貫井図書館を利用しているので利用者懇談会に出たのですが、貫井図書館は入ったらすぐにりんごの棚があって、LLブックが、パッと目についたんですね。練馬図書館にも今日来たけれど、目につかなかったのです。

りんごの棚は全館にあるのですか。

図書館 全館ではないのではないですかね。

利用者 りんごの棚とって、りんごをこういうふうにして、貫井図書館に入るとすぐ目につくようなところに置いてある。子どもコーナーに行くところの一番前のところに置いてあって。

図書館 入って子どもコーナーですものね。

利用者 そうなのです。入って、カウンターがあって、ここに置いてあるみたいな感じで。練馬図書館はパッと目につかなかったのです。

それで、これから図書館サービスで障害者サービスというか、外国語しかできないような子どもたちへのサービスも含めて、これはすごく大きく大事になってくるのではないかなということ、練馬図書館さんはどのようなことをなさっているのか聞こうかなと思って。

いろいろな障害というか、LLブックが必要な子とか、あと、ディスレクシアの子ども用とか、あと、布の絵本も、そういうことも含めて、貫井図書館さんは棚に全部、布の絵本もここにありますが、パッと目につくような感じだったので、これはいいかなと思って。

他の図書館では、りんごの棚を私が見て、他の図書館も結構利用するのですけれども、今日すごくそれが目立ったのです。

図書館 ありがとうございます。りんごの棚を練馬で作ったのは5年か6年前ぐらいだったかと思えますけれども。

正面から入っていただいて、そのまま突き当たったところに、位置的にはそういうところにあるのですけれども、今後は、さっきの布の絵本も、本当はもっと広く場所を確保したいという思いもあるのですけれども、何分、さっきのセンター副所長の話にもあったとおり、改修という、毎年こういう話ばかりして本当に申し訳ないですけれども、棚を動かしたりというようなことになると、そういう大きな工事になってしまうので、そこまで待つということに、つついなくなってしまいます。だから、棚をいじられて、一部だけで何かできることで今のところ一生懸命やっているというところで

すかね。

図書館

さっきの世界の言葉で読み聞かせは申込制にしているのですけれども、今30何人来ていて、割と名前を見ると、ふだんカウンターで接する人ではない外国っぽい方もいらっしゃるから、もしそれで楽しんでもらえたら、図書館が楽しかったなと思ってくれれば、また来てくれるかなというふうに思います。

さっきお話にあった小学校とか中学校とのつながりはあるけれども、というのでいえば、子どものころに行った記憶があれば、また大人になったり、高校生になったときに図書館に行けばというのを覚えていてくれれば、疎遠になっても、またいつかは来てくれるのかなというふうに思います。

図書館

あまり時間がなくなってきましたので、せっかく来ていただいたので、ぜひ御発言をいただければ。

利用者

あまり聞いても分からないのですけれども、私の町会は隣なので、イベントがあつたり何かして募集したいなというのがあれば、言っていただければ回覧で回したり、掲示板にポスターを貼ったり、そういうのが全部、私の方に来るのですよ。行政からもきて、月2回やっていますから、もし要望があれば言っていただければ、手助けにはなるかなと。

図書館

ありがとうございます。

利用者

外国ではあれですね、食文化の方が、街中に随分いろんなお店が増えましたよね。イラクとか、中東のお店ができたりとか。

利用者

練馬駅もテレビで見ましたよね。あるのですよ、多国籍の食べ物が。日本の食べ物の名前も分からないのに。

利用者

館長、いいですか。本当にお礼を。まず、イングルサイドの立場として、読書会を、また2月末ですよ。そのときには、実はこれからの話合いなので、今は何も今年度のことはお話できないのですけれども、昨年度もとても楽しかったので、またそれを生かして今年も一緒に開催させていただきたいなと思っています。

それと、立て続けに、2月にムーミンの講演会を貫井でやり、ついこの間、かこさとしさんの講演会を貫井でやったときに、練馬図書館にいっぱい資料を組んでくださりまして、本当にありがとうございました。どんなに助かったか。ここがなかったらできなかったと思っていますので、本当にありがとうございます。ここで組んでいただいて送っていただいたのですよね。ありがとうございました。

それと、この間、学校図書館指導員の会で委託講座があつたとき、ありがとうございました、いろいろと。どんなにおもしろい講演会だったかということをお伝えしたいと思いますね。一緒に見た指導員の人たちが、本当におもしろかったと言っていました。ということで、相当綿密に緻密にプログラムを組んで、さぞかし大変だったのではないかなと思いましたので、ありがとうございました。

図書館

ありがとうございます。

利用者

個人的ですけれども、先月水曜日か何かのときのお話会を見にきたときにや

ってくださった絵本をパクりました。あまりにおもしろかったのです。

3年生だったか、4年生だったかですけれども、ものすごくよかったです、反応が。手品という絵本と、それから、まちの中のいろんなところが顔になって見えるという絵本を持って行ったら、本当に子どもたちが食いついたので、ありがとうございました。パクってよかったです。ありがとうございました。

利用者 高齢者施設でブックトークをされているという。お話し会とか読み聞かせというのは、よく聞くのですけれども、ブックトークというのは珍しいなというか。紙芝居をやったり、絵本を読んだり、歌を歌う。いろんなことがあるけれども、ブックトーク。これは前にお話ししたときに、すごく興味を持って、高齢者の方が借りてくださったりするということで、これはすごくいいなと思って。

図書館 持っていった本をその場でお貸ししたりするのですけれども、結構借りられますよね。

利用者 そうですね。その反応が、ブックトークを高齢者施設でやっているというのは私も知らなかったのです。

図書館 そうですね。本を読むだけではなくて、テーマを決めて、それについて話しながら本を紹介しながら、クイズとかもしながら見たり。

利用者 すごく、きっと楽しい時間なんだろうなと。

図書館 そうですね。この前に行ったときは、鉄道というテーマにさせてもらって、そしたら、結構、駅弁でみんな盛り上がりたり。いろんな本を借りていただいたりしましたので。

利用者 図書館司書の方のチョイスはすごいなとか思いました。

図書館 ありがとうございます。

まだまだ、いろいろと御意見をいただきたいところなのですけれども、お時間が来てしましまして、そろそろ終了とさせていただきたいと思います。

また、お手元にアンケートがあるかと思いますが、恐れ入りますが、記入していただいてあちらの箱へ入れていただければと思います。

本日は、本当にお忙しいところ、お越しいただきましてありがとうございました。